

令和2年度事業報告

1. 事業概要

令和2年度は、コロナ禍より経済の落ち込みが急降下する中、各業界に大きな打撃を与えることとなり、当シルバーに於いても請負・派遣事業に影響が及び第1四半期から第3四半期前半にかけて受託額減少に繋がりましたが、第3四半期後半の12月から3月までは、前年度を上回る受託額となり特に除雪の受注依頼が多く見受けられました。

しかしながら、コロナ情勢が冬期間の派遣事業にも及び昨年度の受託額を下回る数値となり総体的には、受託額が令和元年度を下回る7,602万円となりました。

令和2年度は、コロナ禍で就業拡大や会員拡大の減少が続く最中でしたが、会員皆様に就労して戴き深く感謝申し上げますと共に発注者及び関係各機関の皆様にもご理解ご協力をいただいたことに厚くお礼申し上げます。

項目	28年実績	29年実績	30年実績	31年実績	令和2年実績
会員数(名)	188	193	191	196	183
受注件数(件)	1,253	1,272	1,061	1,082	1,199
就業延人(人)	1,3007	14,603	12,445	12,484	11,416
受注契約金(万円)	8,089	9,025	7,676	8,048	7,602

2. 事業実施状況

(1) 会員の拡大

新聞折込を始め、市広報誌、一会員一名運動、推進委員による訪問活動など推進に努めましたが、コロナ禍により活動自粛が余儀なくされました。

- ① 年次計画においての年2回「入会説明会」を開催し、役職員によるシルバー事業に対する理解と協力を得て、令和2年度新入会員11名が入会となりました。
- ② 「一会員一名運動」の促進を図りましたが、コロナ自粛もあり積極的な活動が取れなかった。「ほう賞要綱」については、令和3年度4月から施行開始となります。
- ③ 10月の全国シルバー月間では、大型店舗2ヶ所で街頭宣伝(リーフレット)700枚を配布し、業務内容のPR実施をするとともにホームページのリニューアルを行い宣伝活用に努めました。

富良野市の人口と会員数(令和3年3月31日現在)

富良野市の人口(人)		内60歳以上人口(人)	会員数(人)	60歳以上会員加入率(%)
男性	9,789	3,713	116	3.12
女性	11,007	4,841	67	1.38
合計	20,796	8,554	183	2.14

(2) 受注拡大と就業開拓

シルバー人材センターが公益性の高い社会貢献団体であることを市広報誌、マスコミ、ホームページを利用し、アピールを行い受注拡大と就業開拓に努めました。

- ① コロナ社会情勢に伴い受注減少の中で、顧客ニーズに対応した会員就業に努め、信頼・安全・安心を確保しながら顧客継続の受注拡大を図りました。
- ② 役職員による「基盤拡大での就業機会拡大訪問班」を編成し、年2回顧客訪問実施、更に会員の「就業アンケート」により、顧客からの就労課題にも取り組み就業拡大に繋げました。
- ③ 会員が「自ら開拓・自ら就労」に心がけ就労機会の拡大や就労開拓に寄与した会員には「ほう賞要綱」により、令和3年度4月から施行開始となります。
- ④ コロナ情勢により、高齢者世帯、一般家庭・福祉家庭の家事援助就業も減少傾向となりましたが、市及び関係機関の発注依頼が増加傾向となりました。
(ふれあいセンター及び緑町児童会館、庁舎維持管理業務の委託管理など)

(3) 就業率と技能向上

就業率の向上と会員の特殊技能を活かすために適材適所の就労配置と希望就労時間による職種開拓に努めました。

また、全会員の技能・技術の向上を目指す講習会は、コロナ情勢を踏まえ次年度への延期とさせて戴きました。

(4) 安全就業の徹底

安全就業は、シルバー事業の最優先事項として、安全適正就業委員会並びに役員による安全適正就業パトロール活動等を行い会員一人一人に安全を訴えることに努めました。

また、安全大会は、コロナウイルスの自粛要請中のため、次年度へ延期とし、健康管理維持対策としては、就業時前のラジオ体操や健康増進講習会は積極的に開催いたしました。

(5) 適正就業の推進

シルバー人材センター事業の理念「自主・自立・共働・共助」に基づき、全会員及び発注者に適正就業ガイドラインの周知を行い、安全就業の確保、公益法人としてのコンプライアンス（法令遵守）を重視しつつ、良好な就業環境を整備することに努めました。

(6) 独自事業の拡充

市民との交流の場である「第12回生き生きフェア」を10月第3日曜日に開催する予定でしたが、コロナウイルスの自粛要請により中止となりましたが、独自推進委員会による生産野菜を会員とふれあいセンターでの販売に変更し、多くの会員や来所者の皆様に喜ばれる結果となり、市民とのふれあいをより一層高めることが出来ました。

(7) ボランティア活動と会員の親睦・交流の推進

公益性の高い高齢者団体として、地域社会に自ら奉仕活動で貢献するシルバー人材センターであり、地域に親しまれ活力あるセンターであることに努めました。

- ① 全員がボランティア活動に参加することを基本とし、会員の自主的組織である「富良野シルバー親睦会」は、コロナ情勢で親睦・交流を図ることが出来ませんでした。情勢が変わりしだい連携を図って行きたいと考えております。
- ② 春の主要公園、観光道路、公共施設等の清掃作業につきましては、中止となりましたが、役員によるワインロードの清掃に関しましては実施することが出来ました。
- ③ 10月には会員から集めたタオル雑巾を女性会員が作成して、2件の福祉施設に寄贈することができ大変感謝されております。

(8) 組織体制と財政基盤の強化

公益社団法人としての基盤は、補助金の活用により就業拡大・会員拡大の推進を図った他、公共事業の管理委託要請を行いました。また、組織体制ではコロナウイルスの自粛により活動制限も在りましたが、新事務所移転によって事務局体制が広域化し、新規事業の参入に繋がり事業運営の強化を図ることが出来ました。

(9) 関係機関との連携強化

富良野市をはじめ北海道庁、その他関係機関並びに（公社）全国シルバー人材センター事業協会、（公社）北海道シルバー人材センター連合会、道内各シルバー人材センターとの連携を図り、事業の円滑な推進に努めてまいりました。

(10) 中期計画の推進

31年度策定の「第1次中期計画」に基づき、効率的かつ迅速的な推進に努めました。